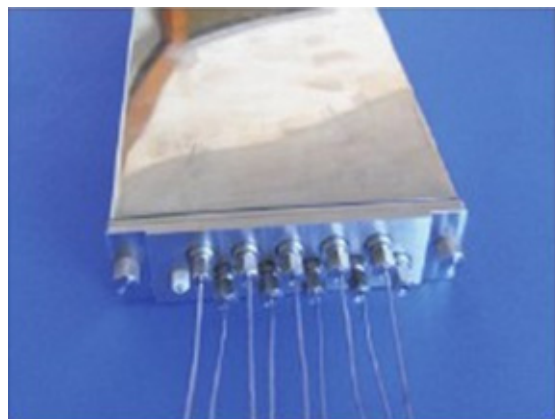


‘VR’ 圧縮栓付き耐熱ボックスTB5810

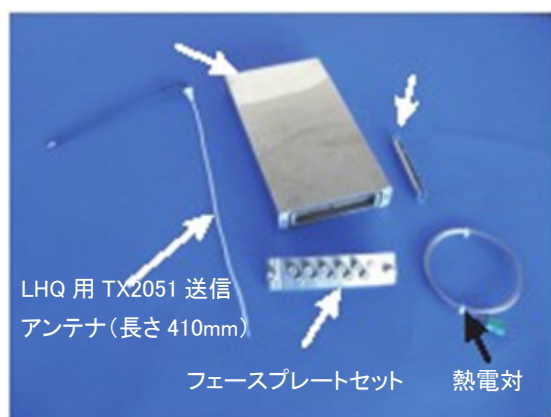
このクイックリファレンスガイドは、‘VR’ バイトン製Oリング付き耐熱ボックスTB5810とデータロガーに熱電対、送信アンテナを取付ける方法や交換する方法に関する手順書です。



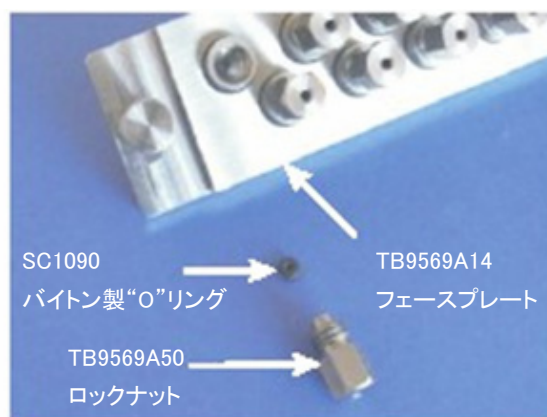
ローハイトクエンチシステム(LHQ)に使用するTB5810耐熱ボックスは完全に浸水する水焼入れ槽中の工程、Tpaq21 ロガーを保護する防水ケースです。



TB5810 には 10 個の熱電対用挿入口とテレメリー測定に使用する送信アンテナ用挿入口 1 個があるフェースプレートセット (CS1202) が付いています。

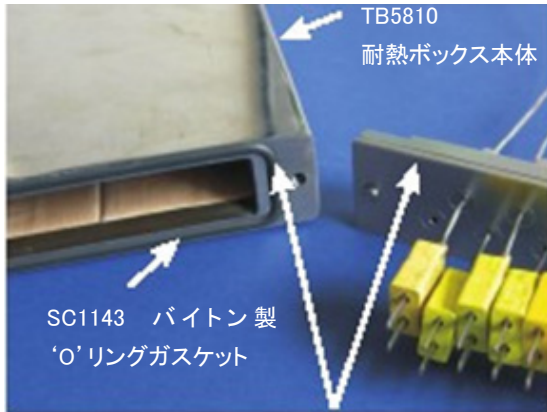


TB5810 に関連するパーツ番号は上記をご参照ください。この組立品には 1.6mm 径のミネラル絶縁タイプの熱電対 (PA0710 など) と一緒にご使用ください。2mm 径のミネラル絶縁タイプの熱電対には違う組立品が必要です。

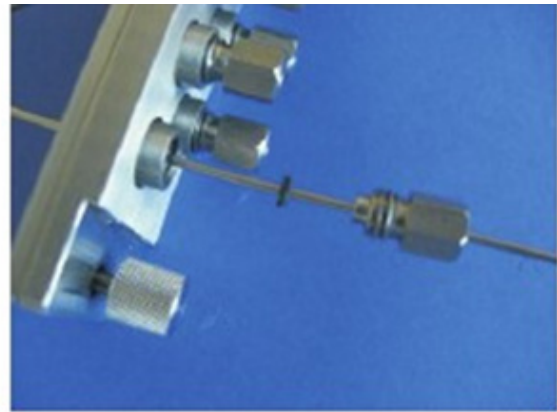


VR圧縮栓のパーツ番号は上記をご参照ください。他のパーツ番号はこの手順書の次ページ以降をご参照ください。

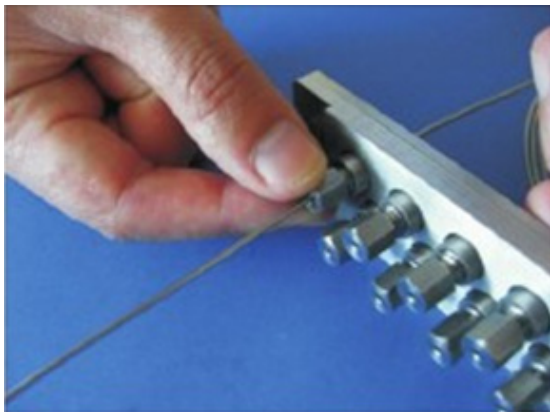
TB5810 フェースプレートに熱電対を取付ける手順



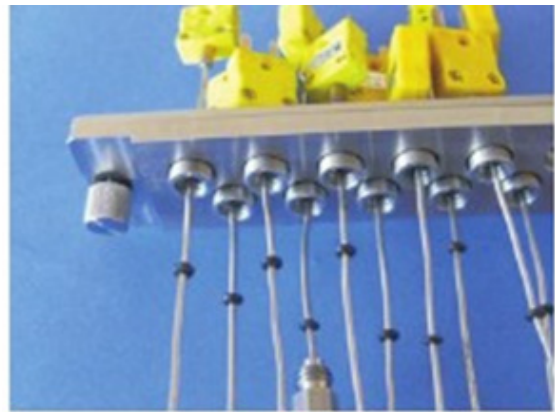
フェイスプレートセットを TB5810 耐熱ボックス本体に取り付ける前に、TB5810 の表面にあるバイトン製ガスケットに接触するフェイスプレートの裏面をチェックし、水が浸入する恐れがある損傷がないかを確認してください。



フェイスプレートセットからロックナットとバイトンリングを外し、上記のように裏側から熱電対を通します。この後、バイトンリングとナットをもう一度挿入します。



バイトンリングを押し込み、手の力で軽くロックナットを締めます。



全ての熱電対を位置決めする間、ロックナットを緩め、約 75mm 後ろにスライドさせておきます。



上記のように全ての熱電対のピンを_loggerの正しいソケットに入るように差し込みます。



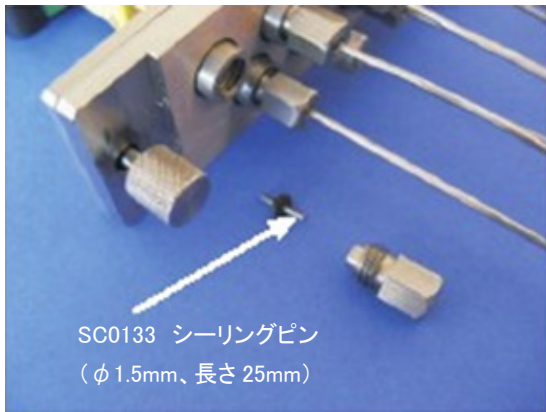
フェイスプレートの裏面とデータロガーの隙間が 40mm になるまでフェイスプレートをゆっくり動かして下さい。この後、全てのロックナットを手の力で締め付けます。



チューブレンチを熱電対に通して差し込み、ロックナットを回します。

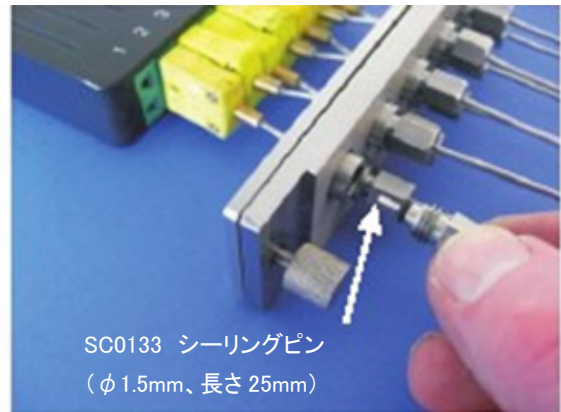


指の力でロックナットを締めた後、小さいドライバーを使い、更に 3/4 回転させます。この時、強く締めすぎないでください。



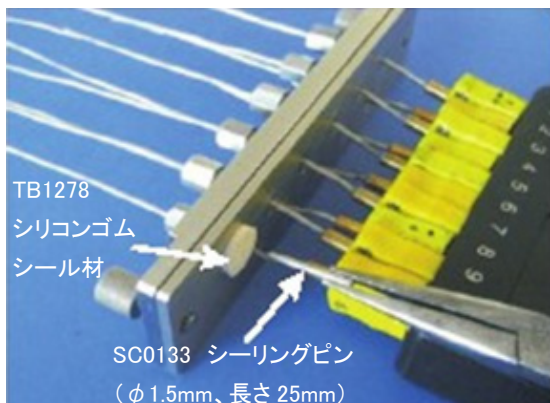
SC0133 シーリングピン
(φ 1.5mm、長さ 25mm)

もし使わない熱電対挿入口があれば、SC1033 シーリングピンを使い、バイトンリングとロックナットを連結し、しっかりと固定します。



SC0133 シーリングピン
(φ 1.5mm、長さ 25mm)

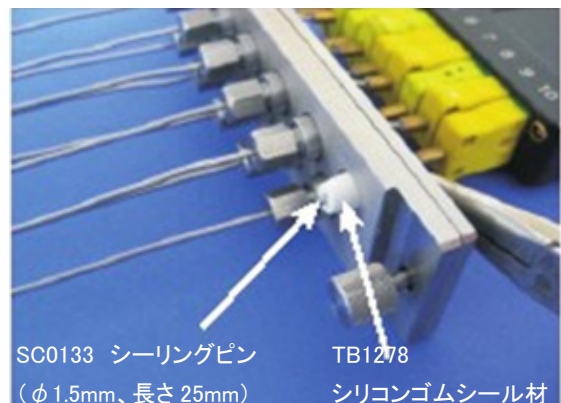
もし SC1033 ピンがない時は、長さ 25mm の古い熱電対、又は 1.5mm のドリルの軸で代用いただけます。



TB1278
シリコンゴム
シール材

SC0133 シーリングピン
(φ 1.5mm、長さ 25mm)

もし無線用アンテナを使わない場合、TB1278 シリコンゴムシール材とSC1033シーリングピンを使い、アンテナ挿入口を塞ぎます。この時、TB1278 はシーリングピンを挿入する前にフェースプレートに取り付けてください。



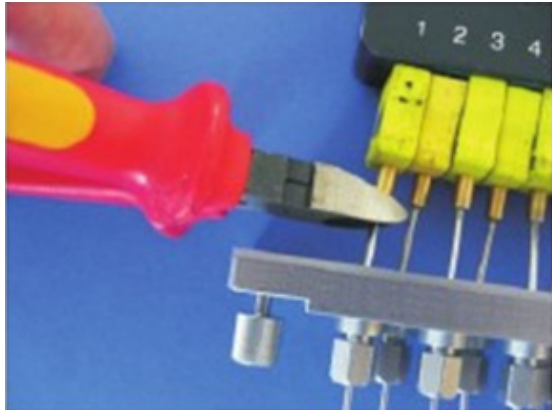
SC0133 シーリングピン
(φ 1.5mm、長さ 25mm)

TB1278
シリコンゴムシール材

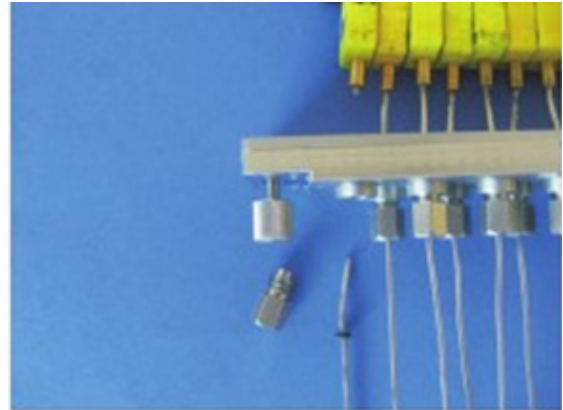
もし SC1033 ピンがない時は、長さ 25mm の古い熱電対、又は 1.5mm のドリルの軸で代用いただけます。

TB5810 フェースプレートの熱電対を交換する手順

熱電対が損傷した時は交換する必要があります。この章では熱電対の交換方法をご説明します。
‘VR’ 圧縮栓はMI(ミネラル絶縁)タイプ以外(グラスファイバー絶縁タイプなど)の熱電対はご使用
いただけませんので、ご注意ください。



損傷した熱電対をプラグの手前で切断します。

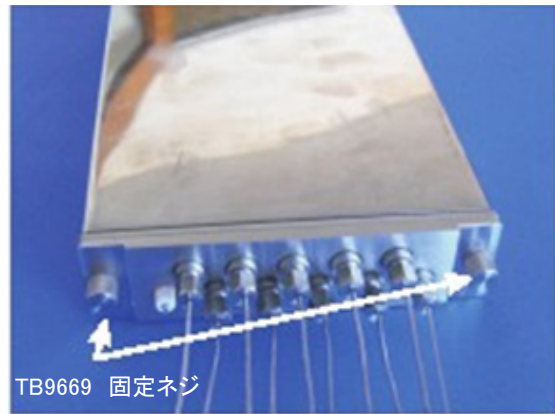


古い熱電対プラグをロガーから外し、ロックナットを緩めてフェースプレートから古い熱電対を取り外します。



注)新しいバイトンリング(SC1090)をお使いください。古いバイトンリングは決して再利用しないでください。

新しい熱電対をフェースプレートの裏側から挿入し、新しいバイトンリングを取り付けます。古いロックナットは状態が良ければ、再利用できます。熱電対プラグをロガーのソケットに差し込み、2～3 ページと同様に締めつけます。



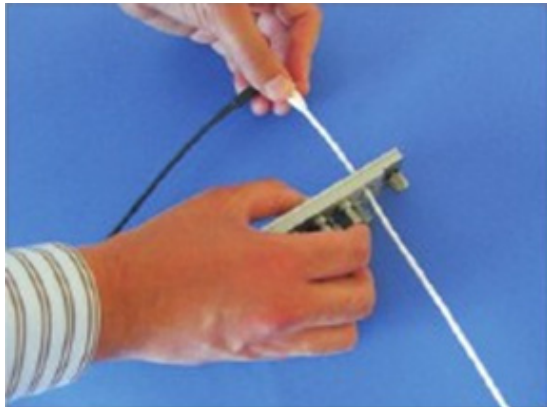
TB9669 固定ネジ

フェースプレートと TB5810 本体の接触面が綺麗な状態であることを確認し、TB9669 固定ネジを使い、フェースプレートを固定します。この際、手の力で締めた後、プライヤーで 1/4 回転更に回します。

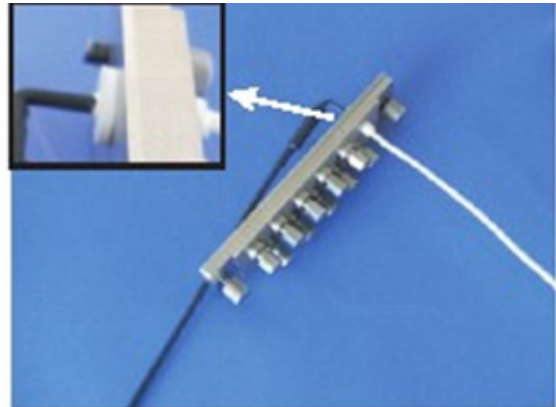
TB5810 フェースプレートに送信アンテナを取付ける手順

発信機付き Tpaq21 ロガーを使うことにより、無線周波数(RF)を経由して炉外のPCに温度データを送ることができます。これを実現するためには、TB5810 を通じて Tpaq21 ロガーの送信アンテナを取り付ける必要があります。

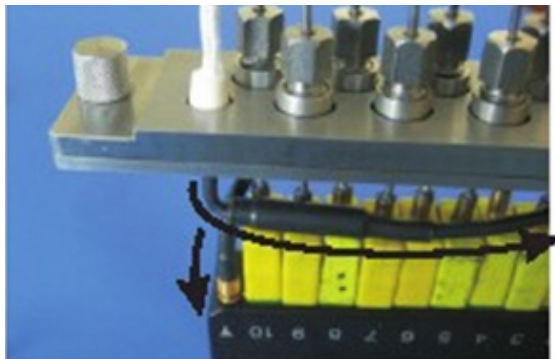
RF 信号は水の中は伝送できず、水クエンチ中はリアルタイムデータを受信することはできませんので、ご注意ください。水クエンチのデータはロガー内のメモリーに保存されますので、測定後にダウンロードできます。



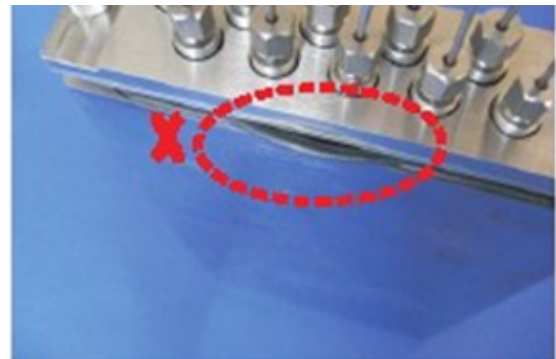
TX2051 送信アンテナをアンテナ挿入口に挿入します。



シリコンゴムのシール材を栓のフランジがフェースプレートの面に密着するように正確に押し込みます。



アンテナケーブルを熱電対の周りに正しく曲げ、Tpaq21 のアンテナソケットに挿します。
※日本仕様の Tpaq21 テレメトリーロガーには送信アンテナを予め固定して納品されます。従って、上記の手順は逆になります。



TB5810 のフェースプレートを締める時は、アンテナワイヤーが TB5810 本体とフェースプレートの間にはさまないように、TB5810 の中にしっかり収納されていることを確認してください。

‘VR’ 圧縮栓付き耐熱ボックスTB5810

パーツリスト:

TB5810 防水耐熱ボックス 構成品:

- 1 × TB5810 断熱ケース本体 SC1143 バイトンガasket付き
(本体とフェースプレート間のシール)

- 1 × GS1202 フェースプレート アッセンブリキット(下記商品で構成されます):
 - 2 × TB9669 固定ネジ
 - 1 × TB9569A14 フェースプレート
 - 12 × TB9569A50 ロックナット(2個は予備)
 - 20 × SC1090 バイトン O リング(10 個は予備)
 - 1 × TB9569A51 スプリットボックススパナ(チューブレンチ)
 - 2 × TB1278 タイプ2シリコンゴムシール材(1個は予備)
 - 6 × SC0133 長さ 25mm、φ 1.5mm シーリングピン(5 個は予備)

注記)

TB4109 耐熱ボックス(20チャンネルシステム)用には同じようなフェースプレートがご利用いただけます。詳しくはデータパック社にお問い合わせください。